

2018 年度事業計画

2018 年 3 月 26 日

学校法人 金城学院

目 次

はじめに	2
《資料》金城学院中期計画（2015年度～2020年度）	
I 2018年度事業計画の策定にあたって	7
II 金城学院大学	8
1 福音主義キリスト教による全人教育の強化	
2 教育・研究の支援と学生支援	
3 地域社会との共生	
III 金城学院高等学校及び金城学院中学校	11
1 キリスト教主義による全人教育の強化	
2 カリキュラムマネジメントの確立	
3 教科教育の研究・充実	
4 中高連携した進路指導体制の整備・充実	
5 研究体制の充実	
6 地域社会との共生	
IV 金城学院幼稚園	14
1 キリスト教主義による全人教育の実践	
2 教育・研究の推進と学習支援	
3 地域社会との共生	
4 新入園児募集の取り組み	
V 法人部門	18
1 キリスト教主義による全人教育の強化	
2 教育・研究の推進と学習支援	
3 健全経営の維持	
4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	
5 金城学院創立130周年記念事業の立案と実施	
VI 予算概要	20
1 予算編成方針	
2 主な事業別予算	

はじめに

金城学院は、1889年（明治22年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女子教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言1：7）」を学院モットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中学校・高等学校では「自立・自律・連帯」を、幼稚園では「愛され、育ち合う。」を、それぞれ教育スローガンとしている。

本学院は、前述のとおり創立から129年という長き伝統を有している。その伝統とは、本学院の発展を願い、戦前・戦中・戦後の苦難の時代を乗り越え、絶えず改革を進めてきた先人たちの労苦の上に築かれたものである。このことに鑑み、本学院は今後も、変革すべきは変革し、変えてはならないものは変えない姿勢で、今日の教育機関を取り巻く厳しい環境や激しい社会の変化に対応していく。

なお、本学院は建学の精神の深化を基本方針とする「金城学院中期計画（2015年度～2020年度）」（次頁参照）を基に、常に学院全体の組織・機構についての客観的な評価を実施し、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、将来をしっかりと展望しつつ、教育・研究における質的向上の不断の努力を今後も続けていく。

2018年度は、中期計画の4年目にあたる。については、中期計画課題を中心に、本年度の取り組みを進める。

《資料》金城学院中期計画（2015年度～2020年度）

テーマ／学校区分／中項目	施策	
Ⅰ キリスト教主義による 全人教育の強化	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・学生と教職員への建学の精神の徹底 ・キリスト教教育の再構築 ・学内礼拝の励行と教会出席の推奨 ・エラ・ヒューストン記念礼拝堂の活用 ・地域教会との連携強化 ・地域住民へのキリスト教講座の充実
	中学校・高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の企画・参加型礼拝の実施 ・近隣教会への出席の奨励 ・キリスト教教育実施体制の再構築 ・教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励 ・宗教主事の果たすべき役割の見直し ・キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応 ・地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励
	幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践 ・礼拝と祈りと奉仕の実践 ・近隣教会への出席の推奨 ・礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻むこと
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教関係諸行事の充実と地域教会との関係強化（礼拝の魅力化と学生・生徒・園児に対する伝道の強化） ・教会関係施設の地域への開放 ・歴史館の設置（金城学院アーカイブズの整理集約・保管・展示） ・キリスト教音楽活動の活性化

教育・研究の推進と学習支援	大学 教育・研究上の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育の充実 ・社会から求められる教養教育の実現 ・国際理解教育の更なる推進 ・高度職業人の育成 ・教育課程の体系化 ・実質的な学修時間の確保 ・学生の主体的・能動的学びの実現 ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づく教育の実現 ・国家試験合格率の向上 ・研究成果の可視化と教育への還元 ・科学研究費などの申請件数、採択件数の拡大
	学生支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー制の充実 ・キャリア開発・就職支援の推進 ・学生マナーの向上 ・クラブ・サークル活動の活性化 ・学生相談体制の充実 ・学生ボランティア活動の促進 ・「K-カルテ」「K-PORT」による学生支援の充実 ・防災体制の整備 ・共通教育運営体制の充実
	教学マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・FD 活動及びSD 活動の推進 ・自己点検・自己評価制度の更なる拡充
	中学校・高等学校 教育力の向上（探究力育成）	<ul style="list-style-type: none"> ・“Dignity”の充実 ・英語と社会の合科“World Studies”の充実 ・GDM（英語による英語教授法）を使った授業改善 ・ESD（持続可能な発展のための教育）導入の検討 ・多様な語学研修プログラムの推進 ・中高大教育連携の更なる推進
生徒支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立・自律・連帯」精神の育成と高揚 ・中高連携した進路指導體制の整備・充実 ・生徒相談に関するケースカンファレンスの定期的な実施 ・校舎建替え期間中の中高相互協力による良好な教育環境の確保 	
教学マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・入試研究部における入試改善の研究 ・カリキュラム研究部における探究力育成の研究 ・教師力向上のための研修会の実施 ・教育評価制度の導入と施行 	

Ⅱ 教育・研究の推進と学習支援	幼稚園 魅力ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実 縦割り（異年齢）保育の充実 保護者と教員との連携強化 保護者参加行事の見直し
	環境の整備と子育て支援 中高大との交流と教員の連携	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備 幼稚園周辺の豊かな自然の有効利用、保全、美化 預かり保育の拡充 未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充 学生、生徒、園児の交流 教員相互の交流・連携
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> 修学及び成長意欲の喚起を促す奨学金制度の見直し
Ⅲ 健全経営の維持	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 人事評価制度の見直し 管理職の育成 内部統制が有効に機能したガバナンスの確立 業務プロセスの見直しによる業務の効率化 危機管理体制の強化 教職員の意識向上によるリスクマネジメントの強化 内部監査制度の定着
	財務体質の強化	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の費用対効果の検証 よりの確な意思決定ができる予算制度への改善 財務指標に裏付けられた健全経営の維持 財源多様化による収入基盤の強化
	広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的広報活動の推進 積極的な情報公開の推進
Ⅳ 地域社会との共生	大学	<ul style="list-style-type: none"> 環境共生モデル地区の維持と活用 「大学コンソーシアムせと」への積極的参加 KIDS（Kinjo Infant Development Support）センターの設置と運営 企業との積極的な連携 生涯教育、社会人教育、リカレント教育の充実
	中学校・高等学校 キャンパスの地域への開放 地域奉仕活動への参画	<ul style="list-style-type: none"> 東区主催「文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供 施設・設備の利用法の見直し 東区主催「文化のみち」への積極的参画と奉仕活動 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動 病院・刑務所・福祉施設等への慰問 音楽系クラブによる演奏奉仕
	幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携による子育て支援プログラムの推進 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> 歩道整備による地域住民及び学生の安全の確保

△ K M P 21 の 推 進	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では、3期（1期…N1、N2棟及び礼拝堂の建築及び周辺整備、2期…W3棟建築及び周辺整備、3期…E1、E2棟建築及び周辺整備）に分けて整備計画を進めることにしている。 ・第1期は予定通り2014年度に終了した。 ・第2期(W3棟建築及び周辺整備)は、2014年度から実施しているが、これを計画通り2015年度中に完了させる。 ・第3期(E1、E2棟建築及び周辺整備)については、2020年度からの実施を計画しているが、それに向けた検討を行う。
	高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校では、2013年度に世光館を竣工した。 ・2014年度から地塩館の建て替えを実施しているが、これを計画通り2015年度中に竣工させる。 ・地塩館の竣工とともに栄光館を改修する。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、高校の改築にともない設置した仮設校舎を引き続き利用し、2016年度から恵愛館、友愛館、信愛館の改築を実施し、2017年度中に竣工させる。
VI 金城学院創立130周年・大学 設立70周年記念事業の立案 と実施		<ul style="list-style-type: none"> ・130周年記念事業についての立案と実行 ・130周年記念寄付金の募集 ・みどり野会（金城学院同窓会）との連携強化 ・金城学院資料室の整備

I 2018 年度事業計画の策定にあたって

少子高齢化の進行、学校間競争の激化など、私学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、社会のニーズもますます多様化してきている。金城学院は、そうした様々な社会の変化とその要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、2018 年度も大学から幼稚園に至る各学校において、様々な教育制度の改革や、経営の改革を推し進める。

大学では、福音主義キリスト教による全人教育の強化を主軸とした教育・研究の推進と学生支援の充実に取り組む。そして、教育・研究の成果を広く社会に還元することを念頭に地域社会との共生を推し進める。

高等学校及び中学校では、「確かな学力」を育むためアクティブ・ラーニング推進と評価の検討を深化させ、“Dignity”を有するピースメーカーの育成を進める。

幼稚園では、キリストの愛を基に独自の教育方針を貫き、多くの支持を得て幼児教育に当たってきた。2017 年度から開始した満 3 歳児保育も本園の特徴を生かし順調に進み、保護者からの高評価を得ている。今後も本園の教育方針を死守しつつ、更に現代の親子に必要な子育て支援に取り組み、地域社会との連携、大学や大学 KIDS センターとの連携強化により、教育の充実と入園児獲得に努めていきたい。

法人部門では、中期計画に基づき、学院創立 130 周年記念事業実施に向けて、本格的な準備を開始するとともに、健全経営を行うため、各種施策を進める。

なお、KMP21 については、大学では 2020 年度から利用を予定している E1 棟建築及び周辺整備に向けての検討を開始する予定である。

II 金城学院大学

「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、多様化する社会で主体的に生きる強さと思いやりの心を兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。大学での教育と研究の活動が、知識だけではなく、熟慮と慎重さをもって生きることへ導く知恵の修得につながるよう、教職員が協力して以下の計画の実現に向けて取り組む。

具体的には学院中期計画（2015年度～2020年度）に基づき、福音主義キリスト教による全人教育の強化を柱に、教育・研究の推進と学生支援を計画し、教育・研究の成果を還元するための地域社会との共生の事業を計画した。

1 福音主義キリスト教による全人教育の強化

① 学生と教職員への建学の精神の周知

学生に向けて、新入生のためのオリエンテーションや、金城アイデンティティ科目の授業の中で、機会ある毎に確認していく。教職員に向けては、礼拝出席を促す工夫をするとともに、新任教職員オリエンテーションや夏期修養会、大学教員キリスト教セミナーを、「建学の精神」の確認の時として位置づける。

② 学内礼拝の励行と教会出席の推奨

学生・教職員に向けて、礼拝出席を勧める工夫に力を入れる。また、新しい宗教主事を迎え、学生にとっていっそう魅力ある礼拝のあり方を検討していく。

2 教育・研究の推進と学生支援

(1) 教育・研究上の改革

① 国際理解教育の更なる推進

2017年度に開始した「副専攻（実践ビジネス英語）プログラム」の検証と改善を行う。また、受け入れ留学生対象「Kinjo O-MO-TE-NA-SHI プログラム」を拡大させ、新たな教育プログラムの拡充および産学連携実習の提案を目指す。引き続き、学生の多様なニーズを満たす新たなプログラムを検討するため、国際交流センターを中心に情報収集を継続的に行う。同時に英語版本学HP・パンフレット等PR資料を作成し、海外向けの情報発信を充実させる。

② 学生の主体的・能動的学びの実現

学部・学科の専門性および教育カリキュラムを考慮したアクティブ・ラーニングとリーダーシップ教育の現状を把握し、これらを推進するための方策を検討する。また、教員や学生にアンケートを行い、授業時間外学修の把握に取り組む。

③ ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく教育の実現

2017年度から始めた、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびアドミッション・ポリシーの改定作業を進める。各学科では、金城学院大学ポリシーと中央教育審議会のガイドラインを参考に改定を行い、大学院の各専攻では、独自の方針に基づいて改定を進めていく。

(2) 学生支援の充実

① キャリア開発・就職支援の推進

Uターン就職希望者にとっては、地元企業の情報不足や就職試験に掛かる時間、金銭面等、多くの問題が生じる。2017年度に三重県と締結した「就職支援に関する協定」を機に、他の都道府県も含めUターン就職支援の更なる強化を図る。

② 学生マナーの向上

礼儀正しく、上品な学生を育成するために必要なマナー教育を教員、学生生活支援センター、キャリア支援センターが協力、分担して行う。

③ クラブ・サークル活動の活性化および学生ボランティア活動の促進

クラブ・サークル活動の活性化を目的とした支援策を検討する。また、学生ボランティア活動に係る支援体制を構築し、学生にとって充実したボランティア活動ができるよう支援を行う。

④ 防災体制の整備

平常時より防災に対する知識・情報に関心をもつことができるよう、改定された災害対策マニュアルの周知に努める。

(3) 教学マネジメント体制の強化

① FD活動及びSD活動の推進

大学の内部質保証を重視した様々な体制整備が求められている状況下、教職員全体で情報を共有するため、第3期大学認証評価にむけたFD・SD交流集会を実施する。また、学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準の設定および具体的な実施方法などに関するFD交流集会を実施する。

② 自己点検・自己評価制度の更なる拡充

大学基準協会による第3期大学認証評価が2018年度から始まり、内部質保証システムの構築が求められている。2017年12月20日に開催された講演会の内容を踏まえ、他大学の動向を参考にしながら、全学的な組織で、全学的な観点から行う内部質保証システムの構築に取り組んでいく。

3 地域社会との共生

① 地域社会の女性支援

2018年4月1日に女性みらい研究センターが発足することを機に、地域社会の女性への支援のための諸活動の充実を図っていく。

② 学部の専門性を生かした地域・社会貢献活動の推進

学科や教員が個々に実践している地域・社会貢献活動に関する情報を共有し、意見交換や相互協力ができるような体制を整え、活動を推進する。また、この地域・社会貢献活動に学生を積極的にかかわらせることにより、専門的実践力の強化に役立てる。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

建学の精神に基づき、「社会に参画し、主体的に生きる女性」を育むため、「科学的思考」「表現」「協働」する力を、全ての教育活動で育成していく。

2018年度入学の高校1年生から、大学入試制度が大きく変化する。また、2021年度から中学校で、2022年度から高等学校で、新学習指導要領がスタートする。それらに対応するために、カリキュラムマネジメントを確立する中で、教科横断を視野に入れつつ、効果的な科目設定や授業内容の改善を行う。さらに、調査書の変更や学習履歴や活動履歴の報告書などの作成に向けての準備が必要となる。

1 キリスト教主義による全人教育の強化

① 生徒の企画・参加型礼拝の実施

伝道週間や特別礼拝などを、宗教常任委員会、宗教委員会を中心に、生徒によって企画を立てて行い、生徒の参加を更に促していく。

② 近隣教会への出席の奨励

教会出席奨励日があるが、1年を通して、担任や授業担当者（聖書科を中心に）の協力を得て、引き続き教会への出席を促す。

③ キリスト教教育実施体制の再構築

これまでの中高の一貫教育としてのキリスト教教育の意義を確認し、「礼拝、行事、聖書科授業」のさらなる連続性を構築していくとともに、キリスト教教育の中で、宗教課が直接、責任を負う生徒の特別活動、ハンドベルクワイアやYWCAなどを、中学・高校で同じ位置付けに整える作業を進める。

④ 幼中高教師修養会の充実

本校の教育の礎であるキリスト教について学ぶ機会として、幼中高教師修養会をさらに充実させる。

⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励

キリスト教学校教育同盟の研修会への参加を促す。さらに、それぞれの年代からの代表が参加していけるようにする。

⑥ 宗教主事の果たすべき役割の見直し

キリスト教教育全般をつかさどる各校の宗教主事が、学院主事会の責任のもとでそれぞれの役割を担い、ますます中高大の連携を強化する。

⑦ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応

キリスト教学校教育同盟と連携し、中高における道徳という教科の位置付けを学院主事会で話し合い、学院として方針を決定する。

⑧ 地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励

課外活動としてのボランティアの形を整え、他者に感謝して仕えることで社会に参加できる生徒を養い育てる取り組みを継続する。

2 カリキュラムマネジメントの確立

教育目標を達成するために編成・計画された全ての教育活動が有機的に結びつき、かつ効果的に実施されているかどうかを評価して、実施された教育活動を改善するというカリキュラムマネジメントを確立する。

3 教科教育の研究・充実

- ① 「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指す、授業改善を一層進める。
- ② 2021年の中学校、2022年の高等学校の新学習指導要領のスタートに備えて、本校の教育課程を改訂する。
- ③ 6年一貫カリキュラムを推進する。
- ④ “Dignity”を土台として「言語技術」「課題研究力」を育成する。
- ⑤ 英語と社会の合科“World Studies”に加えて、教科横断型学習の実践研究を充実させる。
- ⑥ 新学習指導要領に向けた新教科「理数探求」「論理表現」の研究開発をする。
- ⑦ 中高大教育連携の更なる推進として、中高大共同研究「中学から大学までの汎用的能力を育成する教育手法の開発」で得られた手法を用いて充実を図ることができるよう、この研究に対して主体的に関わる。
- ⑧ ICTの更なる活用を検討する。

4 中高連携した進路指導体制の整備・充実

- ① 進路指導が単なる知識・技能の習得度に基づく指導に留まることなく、多面的・総合的な評価に基づき、生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するあり方に転換する。
- ② 大学入試制度の変更や入試の多様化について、進路指導課として情報収集し、早めの準備やその対応方法などを提案する。
- ③ 調査書及び指導要録の様式等を、新たな中学校・高等学校の在り方を踏まえ、生徒の多様な学習成果や活動が反映されたものになるように改定する。

5 研究体制の充実

(1) 入試研究部における入試改善の研究

- ① 思考力を測定するような記述式試験、及び 2020 年小学校指導要領改定に伴う英語試験の中学入試導入についてさらに検討する。
- ② 面接内容を検討する。
- ③ 塾などの主催する入試研究会への参加、入試情報誌の閲覧、研究部内での勉強会の実施などを行う。

(2) カリキュラム研究部における探究力育成の研究

- ① 教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援をする。
- ② 2017 年度の各教科の授業実践報告を分析し、教育目標が教科教育においてどの程度達成されているかの把握をする。
- ③ 教育課程表の形式の改善をする。
- ④ 21 世紀型学力の研究開発をする。
- ⑤ 次期学習指導要領の内容及び高等学校教育・大学教育・高大接続の一体改革の動向把握をする。
- ⑥ 新たな評価方法の研究・開発を行い、生徒の多様な学習成果や活動を評価する方法に転換する。
- ⑦ 中学新校舎で e - 黒板を活用し、活用力を養う授業の計画と実施をする。

(3) 教師の研究力向上のための研修会の実施

① 中高教師研修会の実施

期日：8 月 20 日（月）

講師：石井 英真 氏（京都大学大学院 教育学研究科 准教授）

6 地域社会との共生

(1) キャンパスの地域への開放

- ① 東区主催「歩こう！文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供
- ② 施設・設備の利用法の見直し

(2) 地域奉仕活動への参画

- ① 東区主催「歩こう！文化のみち」への積極的参画と奉仕活動
- ② 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動
- ③ 病院・刑務所・福祉施設等への慰問
- ④ 音楽系クラブによる演奏奉仕

IV 金城学院幼稚園

少子化と母親の就労増加に伴い保育園志向が増加傾向にある中、幼稚園教育の持つ目的と重要性を明確にしつつ、健全経営を図るため各幼稚園が大きな悩みを抱える昨今である。そのような中、「幼稚園教育要領改訂」が2017年3月に公示された。改訂のポイントとして強調されている、幼児期に育てたい資質・能力の柱として「知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力などの基礎、学びに向かう力や人間性など」は幼児の遊びや生活を通して一体的に育まれることが大切であると唱えられている。

また、スムーズな小学校への連携として幼児期の終わりまでに育てたい姿は、自発的な活動としての遊びを中心として幼児教育を通じ小学校以降も持ち続けることを目指していると解説されている。本園にとり、今まででも推し進めてきた教育方針そのものであることを再確認し、キリストの愛のうちにあり、子ども、保護者、保育者が互いに育ち合うことを目的として「愛され、育ち合う。」をスクールモットーとして掲げ、より質の高い幼児教育に取り組み、キリスト教幼児教育の推進のため、2018年度の教育事業を以下のように進める。

1 キリスト教主義による全人教育の実践

① 建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践

教育スローガン「愛され、育ち合う。」を実施するため、キリスト教保育連盟2018年度聖句「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。(ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節)」を基に、カリキュラムを組むものとする。

② 礼拝と祈りと奉仕の実践

教員自身が礼拝を重んじ、聖日礼拝出席、奉仕に携わるなどを通し、全園児合同礼拝、クラス礼拝の充実を図る。また年長児による合同礼拝での献金奉仕、クリスマスキャロリング、ハンドベル演奏などを通し地域での奉仕を実践する。

献金の送付先につき話し合い、献金がどのようにして神様に用いられるかを知ることを通し、身近な社会や世界に目をむけたり、自分たちにできることを考えたりする。また、祈る機会を多く持ち、子どもの素直な言葉による祈りの心を大切に育む。

③ 近隣教会への出席の推奨

教会出席のきっかけ作りとして、夏休みなどの長期休暇に教員が交代で子どもたちと共に地域の教会へ出席をする。また教職員、クリスチャン保護者の通う教会案内を掲示し、親子での教会出席を奨める。

- ④ 礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻む
毎月の聖句暗唱、讃美歌、聖話は天地創造からキリストの降誕、イエスの生涯、十字架の贖罪、復活と昇天を年間カリキュラムに組み入れ伝える。3学期には全園児で主の祈りを覚える。

2 教育・研究の推進と学習支援

(1) 魅力ある教育の推進

① 縦割り保育の充実

満3歳児、3・4・5歳児が家庭的な雰囲気の中で交わり、遊びや生活を通し、異年齢の子と関わることで、より多くの刺激を受け経験を広げ深める。

自分らしさを出し合いながら、思いやりやいたわりの心を育めるよう縦割り保育を行う。

② 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実

主体的で能動的な活動としての遊びが協同的経験として子どもの中で充実していくために、自由活動と学年別活動・クラス活動をリンクさせながら、一貫性を持たせた保育に取り組む。

2018年度から週1回、自由活動時間帯に「英語で遊ぼう」コーナーを設け、より多くの教育的環境を提供する。同時に2018年度から水曜日の半日保育を通常保育に改め、より充実とゆとりあるカリキュラムのもと、教育に努めるものとする。

③ 保護者と教員との連携強化

保護者と教員との懇談や保護者の保育参加を通し、園児の相応しい成長のための連携強化を図る。

④ 保護者参加行事の見直し

年間行事では保護者負担にならないよう、有志参加のものを中心に行う。また、父母の会活動に関して、自発的奉仕の精神を基本にしつつも、母親の就労や会員数減による負担感がないように、委員数や活動内容を見直す。

⑤ 教員の研修

- ・各種幼児教育の研修や公開保育の積極的な参加を推奨する。
- ・園内研修を随時行い、更なる保育の充実に努める。また、KIDSセンターとの共催で研修を行い、連携を深める。
- ・障害を持つ子や支援を必要とする子の個別指導計画に基づき、随時園内研修を行い、教員が共通理解と関わりを持つ。

(2) 環境の整備と子育て支援

① 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備

魅力ある園庭、主体的な遊びを促す環境整備に努める。また同時に、遊具や設備の安全点検を日常的に行い、メンテナンスを定期的に行う。また、キャンパス内の豊かな自然環境の有効利用、保全を大学との連携により行う。

② 預かり保育の拡充

通常保育後の教育活動としての預かり保育のニーズはますます高まり、更なる子育て支援として量、質の充実に努める。また長期休暇中の利用についての検討を行う。

③ 未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充

従来2歳児のみを対象としていた幼稚園見学を、KIDSセンター利用0歳児から対象に呼びかけ幼稚園見学や遊び体験会として拡充し、参加者が入園までの期間も幼稚園に繋がる機会となるようにしていく。さらに、2歳児プレ幼稚園、入園前プレ幼稚園開催の充実拡充に努める。教育活動中にもこれらのプログラムが行えるような多目的な場所を検討していく。

(3) 中高大との交流と教員の連携

① 学生、生徒、園児の交流

大学・大学院生の実習、中学生・高校生の職場体験、高校生キャラバン隊、中高大ハンドベルクワイアによる奉仕など、様々な交流の機会をもつ。

② 教員相互の交流・連携

幼中高修養会を通し、キリスト教教育に携わる教諭相互の交流・連携を深めていく。

3 地域社会との共生

① 大学との連携による子育て支援プログラムの推進

KIDSセンターとの更なる連携により、相互の活動が地域の子育て支援に活かされるよう進める。また幼稚園入園後も情報交換しながら親子を支援する態勢を整えていく。

② 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施

近隣の保育園児を招き、ドッジボール大会や一緒に遊ぶ活動など年長児を中心に計画していく。また例年3学期に地域の小学校を訪問し、1日体験を通して就学への不安を拭き期待を持つきっかけとなっている。2018年度も引き続き訪問依頼を予定している。

③ 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施

花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス讃美礼拝、ハンドベルコンサートなどの機会を活かし、近隣の方やお年寄りを招くなどの計画を通して交流を持ち、感謝を表すと同時に、幼児教育の理解を深めていただく。

4 新入園児募集の取り組み

(1) 入園願書配布のための取り組み強化

① 幼稚園体験と説明会の充実

先に述べたように、プレ幼稚園や KIDS センターとの連携により入園に繋がる取り組みを企画し行う。

② 幼稚園広報の充実

園生活の公開をこまめにホームページにアップし、説明会参加につなげたい。
また、入園関連のチラシを守山区役所民生子ども課や KIDS センターに置き、PR に努めたい。

V 法人部門

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や、多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革の推進を、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画に基づく法人部門の2018年度事業計画としては、次の5点を掲げてその取り組みを進める。

1 キリスト教主義による全人教育の強化

- 金城学院アーカイブズの整理集約・保管・展示

資料館設置に向けて、まず、アーカイブズの整理集約を行ない、保管・展示についても検討する。

2 教育・研究の推進と学習支援

- 就学及び成長意欲の喚起を促す奨学金制度の見直し（継続）

本学院の各校・園に通うすべての学生・生徒・園児が、経済的にも安心して教育を受けられるよう、給付型奨学金を前提として、新たな方策を検討する。

3 健全経営の維持

(1) 組織力の向上

- 業務プロセスの見直しによる業務の効率化

ルーティン業務においても、その他の業務においても、常に創意工夫を怠らない姿勢を持ち、業務改善を図ると共に、スクラップ&ビルドを適正に行ない、業務の効率化を図る。

(2) 財務体質の強化

- 財務指標に裏付けられた健全経営の維持

KMP21の最終フェーズ実施に向け、近年のKMP21に関連する収支を除いた経営評価が健全状況であることと今後の財務指標の目標値を改めて共有し、2019年度以降の予算編成を推し進める。

(3) 広報の充実

- 積極的な情報公開の推進

本学院の教育・研究活動状況を積極的に公開する。また、情報公開すべき事項を検討し、必要に応じて公開する。

4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

○ 大学第3フェーズの実施

大学第3フェーズを1年前倒しして2018年度から実施し、2019年度末に竣工させる。

5 金城学院創立130周年記念事業の立案と実施

○ 130周年記念事業についての立案（継続）

金城学院創立130周年を、建学の精神に基づく学院の使命を改めて確認する機会としてとらえ、130周年記念事業委員会を立ち上げると共に、具体的な企画を立案し、実施に向けて検討する。

VI 予算概要

1 予算編成方針

(1) 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員 100%、退学・休学想定率 2%とする。補助金収入は、前年度実績の 90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

(2) 支出関連

健全財政の確保を目的として、2018 年度の継続経費は、「2017 年度規模に対するゼロシーリング」を目指す。また、引き続き、防災対策強化、環境配慮などの政策的予算への積極的な再配分を目指す。設備更新関連は、緊急性、有効性などを十分検討し予算化する。

(3) 保有資金

KMP21 に関連する収支を除いた予算で、2018 年度において保有資金の増額 10 億円以上を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2018年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	事業内容	予算額
KMP21 関連事業	(大学) ・ E1 棟 新築工事に係る建築費および 設計費着手費用	1,522,690
教育設備 充実事業	(大学) ・ CALL 機器ほか更新 など	179,807
	(高等学校) ・ 小礼拝堂シーリングファン設置	
	(中学校) ・ 南側駐輪場屋根設置工事	
	(幼稚園) ・ 増築工事	
修繕事業	(大学) ・ W1 棟設備・機器年次改修 ・ 屋外体育施設改修 ・ 本部棟改修 など	540,661
	(高等学校) ・ 栄光館空調修理	
	(幼稚園) ・ 1 階トイレ改修工事	
広報事業	・ 新聞広告掲載 ・ 鉄道額面ポスター掲出 など	70,000
防災対策 強化事業	(大学) ・ 学生安否情報システム再構築 など	27,609
その他	・ 緊急特別就職支援策 など	66,012
合 計		2,406,779